



[具体的データ]

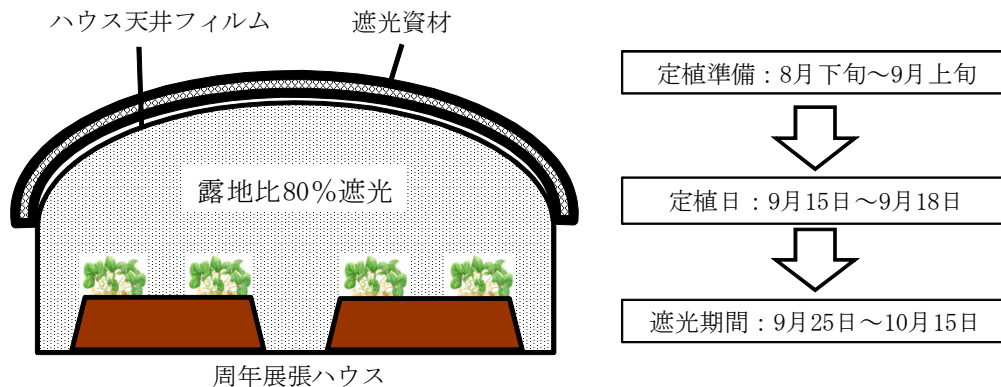


図1 イチゴ早期作型における遮光方法と8~10月の作業の流れ

表1 遮光率とイチゴ周辺の環境、第一次腋花房の開花 (平成25年)

遮光率	光合成有効 光量子束密度 (PPFD)	9/27~10/20の期間平均		第一次腋花房の 年内開花株率
	ハウス内(露地比)	日最高株元気温 (外気温差)	日最高地温	
	$\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ (%)	$^{\circ}\text{C}$	$^{\circ}\text{C}$	%
80%	322(20)	25.7 (-0.7)	22.7	53 a
58%	678(42)	26.6 (+0.2)	23.7	23 ab
無遮光	1,146(71)	28.3 (+1.9)	25.0	7 b

- 注) 1. 夜冷短日処理した9cmポリポット苗を使用、定植日は9/15。  
 2. 遮光資材は黒色寒冷紗(#610、遮光率58%)を使用。80%遮光区は9/10~25を黒色寒冷紗の二重被覆し、9/25~10/20を黒色寒冷紗で二重被覆した。58%遮光区は寒冷紗一重被覆(9/10~10/20)。  
 3. PPFDFは10/14(晴)の10時、12時、14時に測定した平均値。  
 4. 株元日最高気温、日最高地温はT&D社製 ThermoRecorder TR-52Sにより5分間隔で測定した。  
 5. 表中の異英文字間はTukeyの多重比較検定により5%水準で有意差あり。

表2 遮光期間と頂花房、第一次腋花房の開花日、商品果収量(平成26, 27年)

遮光期間	開花日 (月/日)		商品果収量 (kg/10a)			
	頂花房	第一次腋花房	11~12月	1~2月	3~5月	合計
20日間	11/ 5 a	1/ 7 a	506 n.s.	643 a	1,984 n.s.	3,133 n.s.
25日間	11/ 9 b	1/15 ab	466	585 ab	2,024	3,075
無遮光	11/ 2 a	1/25 b	628	328 b	1,886	2,842

- 注) 1. 夜冷短日処理した9cmポリポット苗を使用。定植日は平成26年9月18日、平成27年9月18日。  
 2. 遮光資材は黒色ポリネットを使用。20日間遮光区は9/25~10/15、25日間遮光区は9/25~10/20。  
 3. 頂花房の開花日は11/20までに開花した全ての株の平均値。  
 4. 異英文字間はTukey多重比較検定により5%水準で有意差あり。n.s.は有意差なし。

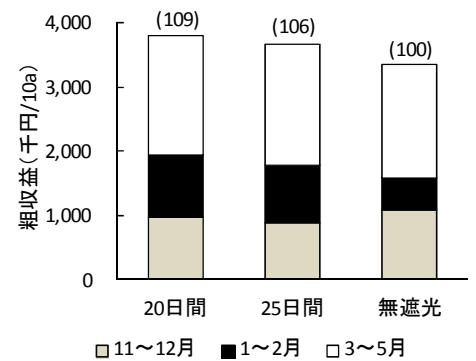


図2 遮光期間と時期別の粗収益(試算)

- 注) 粗収益は商品果収量と「あまおう」の月別平均単価を掛けて算出し、()内は無遮光を100%とした比率。

[その他]

研究課題名: 適期定植作業のための生産技術・周年展張ハウスによる省力安定生産技術の確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成27年度(平成25~27年)

研究担当者: 宇都俊介、小賦幸一、梶原孝樹、林田達也